

# 感染症情報 6月24日～30日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①手足口病	1,780例(堺市 140例)
②感染性胃腸炎	908例(堺市 56例)
③溶連菌感染症	470例(堺市 59例)
④ヘルパンギーナ	371例(堺市 35例)
⑤伝染性紅斑	240例(堺市 28例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	35例(堺市 4例)
---------	------------

感染症報告数は前週比4.7%減の4,131件であった。

報告数の第1位は手足口病で、以下感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順であった。

手足口病が府下で1%減、堺市は前週と同数であった。引き続き大阪市東部を除いて大阪府全ブロックで警報レベル継続中である(府下の定点あたりは9.04)。感染性胃腸炎は府下で前週と比して16%減、堺市では19%増であった。溶連菌感染症は府下で8%減、堺市で11%増となった。ヘルパンギーナは府下で6%増、堺市で29例→35例であった。伝染性紅斑は府下で3%増、堺市で27例→28例であった。

麻疹が大阪市で1例あり、府内の年始からの累積報告数は144例となった。

風疹も大阪市で1例あり、府内の年始からの累積報告数は118例となった。